

「実験歴史学の方法構築に向けて」研究経過報告

平成 29 年 4 月 20 日受付

齊 藤 健太郎*

要 旨

「実験歴史学の方法構築に向けて」は、実験概念と実験そのものの導入が遅れている歴史研究に、最新の社会科学の成果である経済学実験の手法を取り入れることを目的としている。今年度は、「経済学実験の中に歴史的含意 historical implication を見出すこと」と「歴史的事実から実験しうる事象を抽出すること」の双方からのアプローチのために、実験歴史学という「歴史と実験の対話」の理論的前提を整理すること、基本的な実験を行うことで実験を歴史に適用する方法を検討すること、将来の実験モデルの研究のための資料調査を行うこと、の三点についての研究を実施した。

キーワード：実験経済学、歴史学、ハト=タカ・ゲーム、イギリス、日本

1. はじめに：本研究の目的

本研究「実験歴史学の方法構築に向けて」の目的は、他の人文社会科学分野と比較して、実験概念と実験そのものの導入が遅れている歴史研究に、最新の社会科学の成果である経済学実験の手法を取り入れることであり、挑戦的な研究のための基礎を構築するため、今年度は以下の三点を実施した。

本研究は「経済学実験の中に歴史的含意 historical implication を見出すこと」と「歴史的事実から実験しうる事象を抽出すること」の双方向からの接近を通じて、この2つを結び付けることを試みる。前者の「歴史的含意を見出す」とは、理論から遡及してそれが生み出された背景との関連を実験において考察することである。一方、後者は、歴史的事実から実験可能な部分を取り出し、実験に向けて整理することである。そこで第一に、実験と歴史を結びつける方法を構築するための枠組みについて考察した。歴史と実験をつなぐ論理として、これまでの歴史学と実験経済学との関連付けの可能性を文献史的に整理した。第二に、経済学実験のモデルを歴史的に読むことが可能かを検討するため、実際に経済学実験を行った。第三に、各国・地域における社会経済的制度の形成などの実験モデルを作るための資料の状況を日本・イギリスについて調査した。以下では、これら三点について述べる。

2. 研究の方法的基礎：歴史と実験は対話可能か？

本研究はこのような目的のため構想されたが、その根幹である人文社会科学における実験研究は心理学から始まり、今や多くの領域に広がっている。経済学における実験は1960年代から発展し、近年、

* 京都産業大学経済学部

実験経済学の創始者である V. スミスがノーベル経済学賞を授与されるなど、経済学研究の方法として確立されている。さらに、伝統的に哲学者の直観と思弁に重点を置く哲学でも、2000年代から実験哲学が英語圏で活発化している。しかし、これら人文社会科学の実験科学化のなかで、歴史学は実験からもっとも遠い領域であると考えられてきた。それは、第一に、歴史学は過去における一回性の事実を扱うものという考えが非常に強いからであり、第二に、クローチェ、コリングウッド、E.H. カー等の思想によって、歴史研究は過去の解釈であるとして、歴史家の主観的関与が強調されてきたからである。この地点に至り、本研究は歴史と歴史学に対する通念は再考されるべき時期にあることを確認したのである。第一の点に対しては、歴史学的研究対象を持つ一方で経済学的分析方法を用いる経済史学において、比較的早い時期から実験に通じる枠組みが示されてきたことがある。1960年代に R. フォーゲルの反実仮想史 counter-factual history などが経済史上の変化の意味や重要性を読みかえる思考実験を行った。さらに近年、A. グライフは、中世地中海の商人の多くの活動をゲーム理論で「実証的」に分析している。ゲーム理論の枠組は多くの経済実験の依拠するものであり、歴史研究における実験研究の可能性を示唆する。第二の点に対しては、歴史学でも G.R. エルトン等が、客観的に存在する事実を歴史学は研究対象とするものとして、カー等の歴史相対主義を批判している。また、フランスのアナール学派等は、心性などの長期的に持続する過去を探求することで、個人や偶発的事件に左右されない領域の歴史の重要性を論じた。このように、実験歴史学の構築の機は熟しており、実験のための理論的な整理と実際の実験の試行がなされるべき時であるといえる。

3. 実験の枠組みと実施

実験経済学は謝金（利得）構造をコントロールすることで、現代人を - たとえば -19 世紀の人間のように振る舞わせることができると主張するが、これが本研究の基礎であり、今年度はそれを歴史研究に適用できるかを検討した。事例的研究として、労働争議や一揆などの歴史的な事件を、実験によって理解することを考える。具体的な例として考察しようとしているのはイギリスと日本の例である。イギリスは 19 世紀後半に労働組合法を成立させたが、労働組合 - 雇用者の関係は敵対的であり、19・20 世紀を通じて多くの争議が頻発した。日本史において、百姓一揆研究は心性や思想などの観点から極めて日本的な性格を帯びる傾向にあるが、一揆のような社会紛争の普遍性から、モラルエコノミー論のような共通の枠組みが存在する可能性を考えることが可能である。

理論的にも、労働争議のような社会現象は説明され、ゲーム理論を用いての説明もその一つである。争議が起こる場合、労働団体側が要求を完全に実現できる場合は少なく、また雇用者側も争議によって利益が減少する。したがって、実際の争議では、相手側が譲歩するか、強行するかに対応して戦略を立てることとなる。これは「タカ・ハト」ゲームといわれる枠組みである。このモデルでは、双方が強気に行動し、それぞれの戦略が要求強行と要求拒否となるときに争議が現実が発生する。ここで、労働・雇用側が得られる利益と損益（利得）が与えられ、それぞれの戦略が確率的に選択される「混合ゲーム」を適用すると、実際に選択される戦略の確率を均衡値として計算することが可能である。

この理論値に対し、実験結果を対照・検討することで、利得構造が示す社会構造や選択された戦略の意味を考察できる。

そこで、本研究グループは、2016年9月に中国・江南大学においてと、2016年11月に京都産業大学において、簡単な「タカ・ハト」ゲームを実施した。江南大学と京産大において、24人の被験者（京都産業大学学生）に対して、争議状況に見立てられる条件と利得を与え、2回の実験を行った。1回目はランダムに相手を選んでの行動変化過程を24回の質問に対して観察し、2回目の実験では相手を固定して同様に24回の観察を行った。また、どうして実験で示したような行動を取ったのかの説明を被験者に求めた。現段階では、歴史実験としての利得構造の設定などは行わず、一般の経済学実験の中にどのような歴史的含意を見出すことができるかを検討した。

4. 文献資料の収集

本研究を推進するためには、労働争議や一揆などの「歴史的事実から実験しうる事象を抽出する」にあたって、実際の歴史事象を様々な角度から検討することが必要となる。これは、本研究の進行に不可欠であり、今年度はそのための歴史資料の状況を、想定している事例研究であるイギリスと日本において確認した。事実のモデル化のために調査として、19世紀～20世紀イギリスの労働市場について、イギリス国立公文書館において労働省関係の争議資料を、労働関連の政府刊行物などをケンブリッジ大学図書館において、また企業連合であるイギリス機械産業連盟のケースファイルをウォーリック大学・近代資料センターにおいて調査し、一部を写真に撮るなどした。また、近世日本の一揆や騒擾の発生経過やその背景となる村落の状況等を明確にするため、一次資料・二次文献を用いた調査を行った。

5. まとめと展望

本研究は非常に多くの領域をカバーする非常に挑戦的な計画であるため、ただちに実験成果を学会や学術雑誌に発表するような状況にはない。しかし、今年度の研究実施によって、構想そのものと本格的な研究推進への大きな指針が得られた。これらは平成29年度（2017年度）挑戦的研究（萌芽）研究計画作成とこれからの研究への大きな貢献となった。京都産業大学・研究機構と学術研究推進支援制度「科研費再挑戦支援プログラム」へ感謝の意を記し、実施報告書を結びたい。

Towards constructing the experimental history

Kentaro SAITO

Abstract

Our research project, “Towards constructing the experimental history”, aims to apply the method of experimental economics, which is one of the latest fruit of the social sciences, to historical studies. We have achieved in this year the following three points for finding historical implications in economic experiments and modelling historical facts into experiments; firstly historiographical researches on theoretical basement for constructing the firm relationship between history and experiments, secondly fundamental economic experiments to apply them for historical studies, and thirdly archival researches on historical records for furthering our project.

Keywords : experimental economics, history, hawk-dove game, Britain, Japan